



加工用米の収量確保ができなかった損失は大きい!!

29年の特徴：移植時期が遅い県南地区で登熟歩合が低かった

(秋田県稲作指針より)		平成 29 年 (湯沢市)	平年安全出穂期晩限
好適出穂期	出穂後 40 日間の積算気温で 880℃ (平均気温 22℃) を確保できる日 <small>この日までに</small> 出穂期を迎えているのが理想	8 月 5 日	<small>平均気温 15℃以下となる日より逆算積算気温</small> 早生種 950℃ 8 月 19 日
直播 の播種晩限の 出穂時期	適応品種：あきたこまち出穂後 40 日間 の平均気温が 19℃を確保できる日 <small>直播</small> でこの日以降に出穂したものは登熟不良の危険	8 月 24 日	中生種 1,000℃ 8 月 17 日
安全成熟晩限日	平均気温が 15℃以下となる初日 (平均気温が 15℃以下となると登熟できない) <small>この日以降は</small> 登熟が進まない	9 月 28 日	晩生種 1,100℃ 8 月 13 日

平成 29 年は・・・

- 移植時・移植後の生育が遅れ、茎数確保や出穂が遅れた圃場が多かった。
- 直播**では播種晩限の出穂時期（出穂後 40 日間の平均気温 19℃を確保できる日）が平年より早かった。
- 安全成熟晩限日（平均気温が 15℃以下となる初日）が平年より早かった。

上記を見ると平成 29 年産米は茎数確保や出穂の遅れが、登熟不良や減収、品質低下の大きな原因の一つだと思われます。特に、**中晩性品種の移植の遅れや、直播栽培の品種選定や播種時期により、そのリスクが大きくなりました。**

- 1.直播は早生種が基本。
- 2.播種は晩性種から始めるのが基本です。

晩生種で対応する加工用米は注意が必要

- ゆめおぼこ
- めんこいな